

野菜花き 8月上旬巡回調査結果の概要

【東北信】 巡回日 8月6日、7日、8日、9日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は着果期であった。輪紋病の発生がみられたが、少発生であった。アザミウマ類の寄生花率は前回調査時より低く、わずかであったが、オオタバコガによる果実の被害は、前回調査同様に多かった。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は収穫期であった。葉かび病が前回調査時より増え、発病株率が高かった。輪紋病も見られたが少発生であった。オンシツコナジラミの発生量が増加し、寄生株率が高かった。アザミウマ類の寄生もみられたが、わずかであった。

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は収穫期であった。うどんこ病は前回調査時よりも増え、発病株率が高かった。また、ハダニ類の寄生がわずかにみられた。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は収穫期であった。べと病の発病株率が高く、炭疽病の発生も見られた（図1）。虫害ではハモグリバエ類の寄生葉もわずかであるがみられた。



図1 キュウリ炭疽病（中野市）

3 いちご

南牧村の巡回ほ場では、アザミウマ類の発生量が前回よりも多くなり、寄生花率が高かった。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は結球期であった。黒腐病の発生がみられたが、少発生であった。虫害ではチョウ目害虫の被害株率がやや高かった。

南牧村のほ場は生育期（5～6葉期）であった。チョウ目害虫の被害がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

軽井沢町の巡回ほ場は結球始期であった。病害虫の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は結球期であった。株腐病、黒腐病の発生がみられたが、少発生であった。虫害ではウワバ類、その他チョウ目害虫の被害がみられたが、少発生であった。

長野市の巡回ほ場は収穫期であった。株腐病、黒腐病の発生がみられたが、少発生であった。虫害では、ウワバ類、その他チョウ目害虫による食害が多かった。

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は生育期（6～7葉期）であった。チョウ目害虫の被害がみられたが、少発生であった。病害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は生育期（9～10葉期）であった。チョウ目害虫の被害株率がやや高かった。病害の発生はみられなかった。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は生育期（7葉期）であった。チョウ目害虫の被害がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場では、周辺ほ場も含めて作付けが無かった。

小海町の巡回ほ場は結球期であった。ピシウム腐敗病の発生、チョウ目害虫の被害がみられたが、いずれも少発生であった。

南牧村の巡回ほ場では結球始期であった。チョウ目害虫の被害株率がやや高かった。病害の発生はみられなかった。

7 レタス

上田市の巡回ほ場は結球期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生がわずかにみられた。

小諸市の巡回ほ場は結球始期であった。すそ枯病の発生がみられたが、少発生であった。

南牧村の巡回ほ場は結球始期であった。病害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は収穫期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生が多かった。

飯綱町の巡回ほ場は結球始期であった。すそ枯病の発生がやや多かった。斑点細菌病の発生も見られたが、わずかであった。

いずれのほ場も虫害の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は茎葉繁茂期であった。茎枯病の発生がみられたが、少発生であった。アザミウマ類の発生が多く、ほぼ全株に寄生がみられた。また、ジュウシホシクビナガハムシの幼虫の寄生がみられた（図2）。

小布施町の巡回ほ場（栽培）は茎葉繁茂期であった。立枯病の発生がみられ、発病株率がやや高かった。虫害の発生はみられなかった。

中野市の巡回ほ場（雨よけ施設栽培→被覆資材除去）では立茎繁茂期であった。アザミウマ類の寄生株率は低かった。その他の病害虫の発生はみられなかった。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は茎葉繁茂期であった。茎枯病の発生株率が高かった。斑点病の発生もみられたが、少発生であった。アザミウマ類の寄生がみられ、寄生株率はやや多かった。



図2 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシの幼虫（小諸市）

9 ながいも

長野市の巡回ほ場は生育期であった。アブラムシ類の寄生はみられなかった。

10 きく

佐久穂町の巡回ほ場は出荷中であった。ハモグリバエ類の寄生がわずかにみられた。病害の発生はみられなかった。

【中南信】 巡回日 8月2日、5日、6日、7日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・抑制栽培）では、定植直後であった。病害虫の発生はみられなかった。

伊那市及び安曇野市の巡回ほ場（いずれもジュース用、露地栽培）では、収穫前であった。いずれの巡回ほ場でも、果実及び葉に灰色かび病（いずれも少発生）の発生がみられたほか、安曇野市の巡回ほ場では、葉に輪紋病（中発生）がみられた。虫害では、いずれの巡回ほ場でも、葉及び果実にオオタバコガ（中発生）の寄生がみられたほか、伊那市の巡回ほ場では葉にヒゲナガアブラムシ類（少発生）の寄生、安曇野市の巡回ほ場では葉にオンシツコナジラミ（少発生）、果実にアザミウマ類による白ぶくれ症果（少発生）の発生がみられた。

2 きゅうり

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）では収穫中、松本市の巡回ほ場（施設・抑制栽培）では定植直後であった。いずれの巡回ほ場でも、病害虫の発生はみられなかった。

3 すいか

飯島町の巡回ほ場では、収穫が終了していた。

松本市の巡回ほ場では、収穫中であった。病害虫の発生はみられなかった。

4 キャベツ

茅野市の巡回ほ場では生育初期、塩尻市の巡回ほ場では定植直後であった（いずれのほ場も収穫終了のためほ場変更）。いずれの巡回ほ場でも、病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場では、定植前であった。

5 ブロッコリー

伊那市の巡回ほ場では、定植直後であった。病害虫の発生はみられなかった。

6 はくさい

木祖村の巡回ほ場では、結球期であった。軟腐病（少発生）による株の腐敗がみられた。

朝日村の巡回ほ場では、定植直後であった（収穫終了のためほ場変更）。病害虫の発生はみられなかった。

7 レタス

塩尻市片丘の巡回ほ場では生育中（6～7葉期）であった。外葉に斑点細菌病（少発生）の発生がみられた。

塩尻市洗馬の巡回ほ場では定植直後であった（収穫終了のためほ場変更）。病害虫の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場では収穫前であった。外葉に斑点細菌病（少発生）の発生がみられたほか、軟腐病（少発生）による株の腐敗がみられた。



図3 アスパラガスのハダニ類（豊丘村）

8 セルリー

原村の巡回ほ場では定植直後であった。病害虫の発生はみられなかった。
松本市の巡回ほ場では、定植前であった。

9 アスパラガス

豊丘村、飯島町の巡回ほ場ではいずれも茎葉繁茂期、池田町の巡回ほ場では立茎中であった。いずれのほ場でも茎枯病（少発生・中発生・少発生）の発生及びアザミウマ類（少発生・少発生・多発生）の寄生がみられた。また、豊丘村ではハダニ類（甚発生）の寄生がみられ、若茎への糸張りや営巣も見られるなど、非常に高密度となっていた（図3）。

10 ねぎ

豊丘村では6.5葉、南箕輪村及び山形村の巡回ほ場では7.0葉であった。いずれの巡回ほ場においても、黒斑病（多発生・多発生・中発生）、さび病（中発生・中発生・少発生）、べと病（いずれも少発生）の発生がみられた。特に黒斑病はいずれのほ場でも増加傾向であった。

虫害では、いずれのほ場においても、アザミウマ類（甚発生・中発生・甚発生）、ネギハモグリバエ（中発生・少発生・多発生）の寄生がみられたほか、豊丘村の巡回ほ場ではネギコガ（少発生）の寄生がみられた（図4）。

11 ながいも

山形村の巡回ほ場では、生育中であった。アブラムシ類の寄生はみられなかった。

12 きく

富士見町の巡回ほ場では、収穫中であった。病害虫の発生はみられなかった。



図4 ねぎのネギコガ蛹（豊丘村）